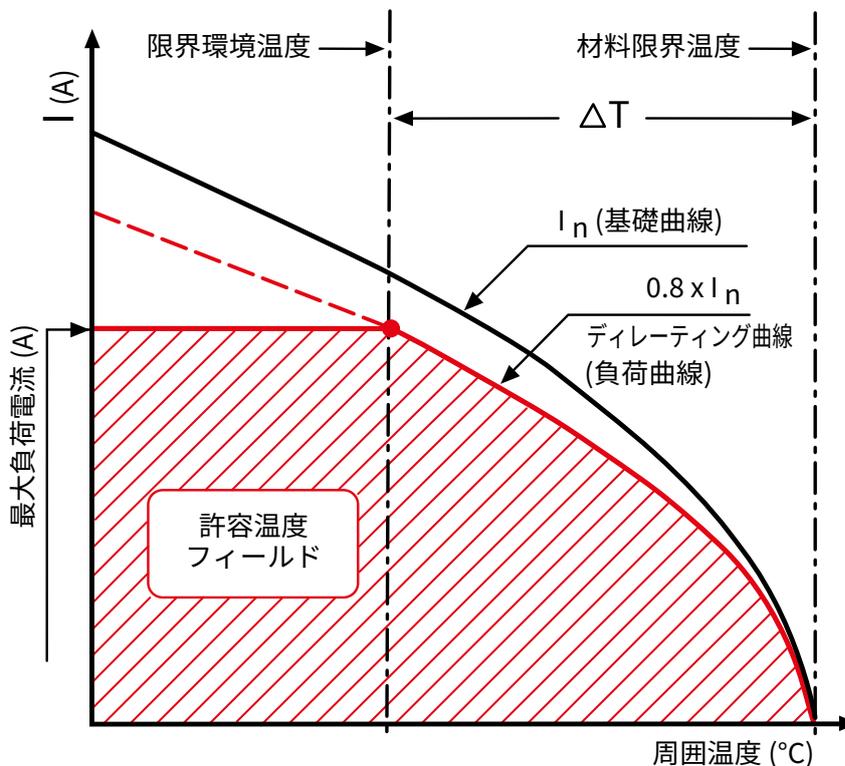


ディレーティング曲線

コネクタの許容通電容量は可変で、極数が増え、コネクタが設置されている場所の周囲温度が上がるに従い小さくなり、また導体の種類、コンタクト、絶縁部品に使用される素材の熱特性より変化します。規格IEC60512-5-2に極全てを同時に循環する電流についての定があり、それに基づき作成したディレーティング曲線から通電容量を求めます。ディレーティング曲線は、素材が最高限界温度に達したときの電流値を表し、コンタクトにかかる永久負荷は、このディレーティング曲線により制限を定めた作動可能な範囲内で選択する必要があります。

限界値はコネクタの素材により異なりますが、その限界値でのコネクタの使用は推奨されていませんので、基礎曲線を下げ、最大許容接触抵抗と温度測定の不正確さを十分考慮した上で、負荷電流を80%に減衰したものを補正曲線と定義します。この補正曲線が、規格IEC60512-5-2による規定に従った確定的なディレーティング曲線(負荷曲線)となるため、温度測定の誤差のみならず各種コネクタインサート間の差異も考慮に含めたものとなります。以降に記載いたしますディレーティング曲線は全て、この補正を含めたものです。



凡例

最大負荷電流(A)

周囲温度上でコネクタ素材の限界温度に達するときに負荷曲線と交わる点での最大電流

材料限界温度:

使用素材の特性から定まる値。環境温度と電流フローにより起こる温度上昇(ΔT)の合計が材料限界温度を超えてはならない

限界環境温度

環境条件がこの値を超えてはならない
限界環境温度は、最大負荷電流が既知であれば求めることができ、負荷曲線から直接求めることもできる

基礎曲線

実験室試験で求められた電流と温度を組としたもので、コネクタの特性(極数、構造形態、素材の熱伝導率など)と導体断面積の影響を受ける

ディレーティング曲線

基礎曲線に安全係数を乗じ求めたもの

ΔT (温度上昇)

嵌合コネクタの全極を流れる永久電流により生じる温度上昇; 材料温度限界と限界電流曲線上で求められた限界環境温度の差分として得られる